

スーパーマーケット景気動向調査

2023年5月調査結果（4月実績）
（2023年5月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

5月調査（4月実績）結果概況

現状判断、見通し判断共に2か月連続で大幅な改善

4月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+3.7の48.2、見通し判断は前月から+5.8の45.3となり、現状判断、見通し判断ともに2か月連続で大幅な改善がみられた。

経営動向調査では、売上高DIと収益DIが共に前月より大きく上昇した。引き続き生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIが過去最高水準で推移し、販売価格DIの高止まりも続いている。買上点数の減少傾向がやや収まり、客単価DIが上昇した。来客数DIも小幅に上昇し、マイナス幅を縮小した。

カテゴリ動向調査では、すべてのDIが前月より上昇した。相次ぐ値上げ、家庭の電気・ガス代の高騰等による節約志向の高まりで、家庭内食品需要に回復がみられ生鮮品DIが上昇、前年より気温が高く推移したことや、行楽需要の回復などが好調を牽引している。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断ともに2か月連続で改善した。特に見通し判断での回復基調が顕著となっている。（長期傾向についてはP11参照）

食品価格の高止まり傾向が続くなか、一品単価上昇に比べ、買上点数の減少幅が抑えられ、好調な販売動向となった。日曜日が一日多いことによる恩恵を受けたが、節約志向による内食・中食需要の持ち直しを指摘するコメントも多い。5月8日からの5類変更で消費者心理にも変化が期待できるほか、大手企業で30年ぶりに4%近い賃上げが実施されるなど、消費マインド改善につながる、明るい話題も多い。一方で、すべての生活者が均等に恩恵を受けるわけではなく、食品価格の高騰が継続するなかで、周辺環境を考慮した店舗運営、商品政策が求められている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：48.2 (+3.7)
前月：44.5

消費者購買意欲DI
当月：45.5 (+3.6)
前月：41.9

周辺地域 競合状況DI
当月：44.9 (+2.5)
前月：42.4

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：47.3 (+3.3)
前月：44.0

見通し判断

景気判断DI
当月：45.3 (+5.8)
前月：39.5

消費者購買意欲DI
当月：42.4 (+3.2)
前月：39.2

周辺地域 競合状況DI
当月：43.4 (+3.3)
前月：40.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：46.6 (+2.8)
前月：43.8

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：7.7 (+9.1)
前月：-1.4

客単価DI
当月：14.3 (+5.7)
前月：8.6

来客数DI
当月：-7.4 (+4.3)
前月：-11.7

収益DI
当月：3.6 (+9.6)
前月：-6.0

販売価格DI
当月：24.8 (-0.1)
前月：24.9

生鮮品仕入原価DI
当月：20.6 (+1.4)
前月：19.2

食品仕入原価DI
当月：23.4 (-0.1)
前月：23.5

カテゴリ動向

青果DI
当月：-4.6 (+14.3)
前月：-18.9

水産DI
当月：0.7 (+9.4)
前月：-8.7

畜産DI
当月：16.1 (+12.4)
前月：3.7

惣菜DI
当月：16.5 (+3.5)
前月：13.0

日配DI
当月：13.5 (+7.7)
前月：5.8

一般食品DI
当月：5.1 (+9.8)
前月：-4.7

非食品DI
当月：-5.8 (+5.5)
前月：-11.3

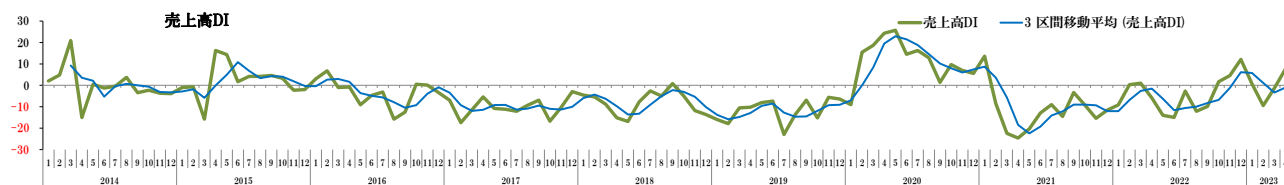
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月大幅に上昇し、プラス圏を回復

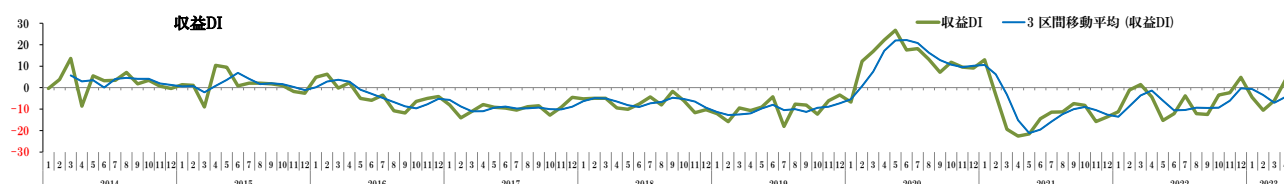
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	10.4	23.0	30.6	33.9	2.2	-1.4
売上高 (当月)	4.8	17.7	27.2	42.9	7.5	7.7



2. 収益DI

当月大幅に上昇し、プラス圏を回復

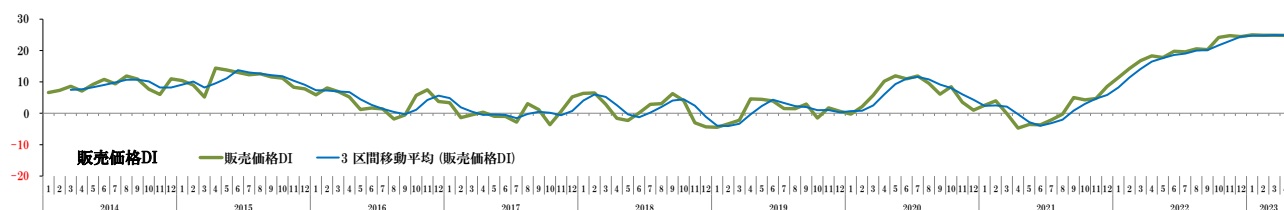
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	12.4	28.1	36.0	18.5	5.1	-6.0
収益 (当月)	5.5	21.4	35.2	29.0	9.0	3.6



3. 販売価格DI

前月から横ばい、過去最高水準付近で推移

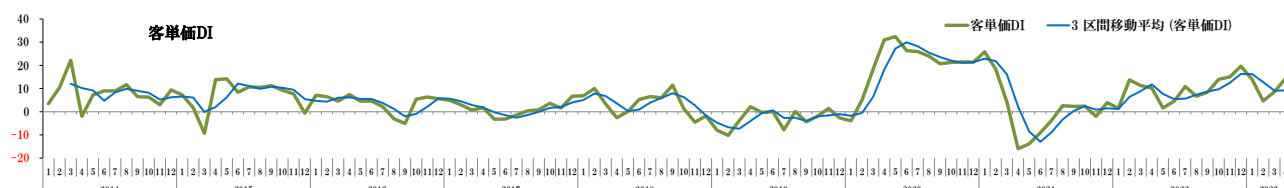
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	1.6	11.0	73.6	13.7	24.9
販売価格 (当月)	0.0	0.7	15.1	68.5	15.8	24.8



4. 客単価DI

前月から上昇し、プラス幅をさらに拡大

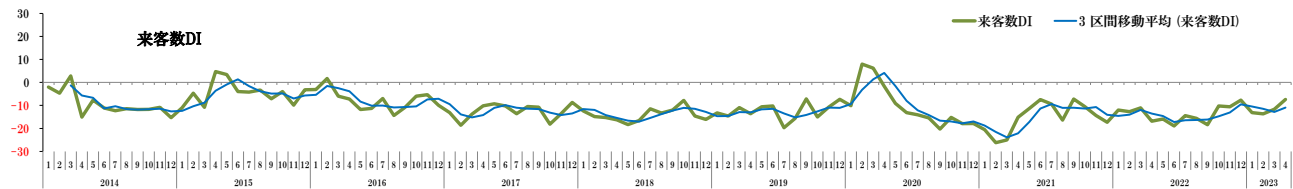
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	1.6	12.6	38.8	43.7	3.3	8.6
客単価 (当月)	1.4	10.3	22.8	60.7	4.8	14.3



5. 来客数 DI

前月から小幅に上昇し、マイナス圏をやや縮小

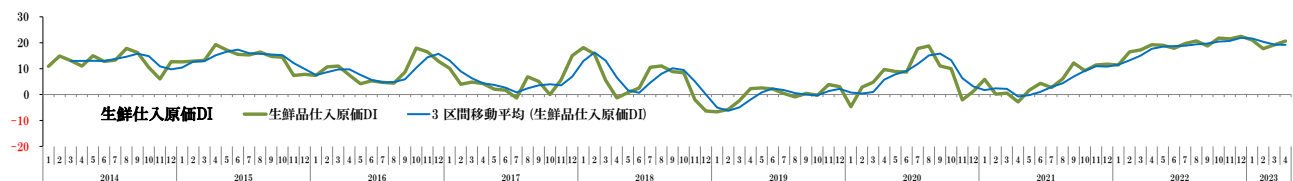
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	11.0	40.7	33.5	13.7	1.1	-11.7
来客数 (当月)	9.0	36.6	31.7	20.7	2.1	-7.4



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から横ばい、二桁プラス圏で推移

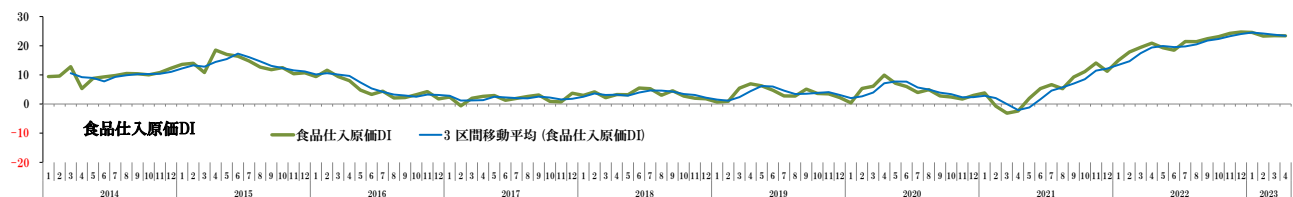
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.8	5.6	20.0	55.6	16.1	19.2
生鮮仕入原価 (当月)	0.0	7.0	16.8	62.9	13.3	20.6



7. 食品仕入原価 DI

前月から横ばい、24 か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.2	3.4	14.0	59.2	21.2	23.5
食品仕入原価 (当月)	2.1	2.1	12.8	66.0	17.0	23.4

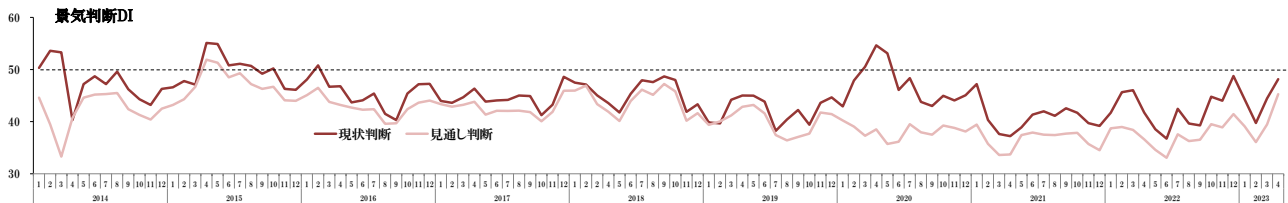


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断、見通し判断共に2か月連続で大幅な改善

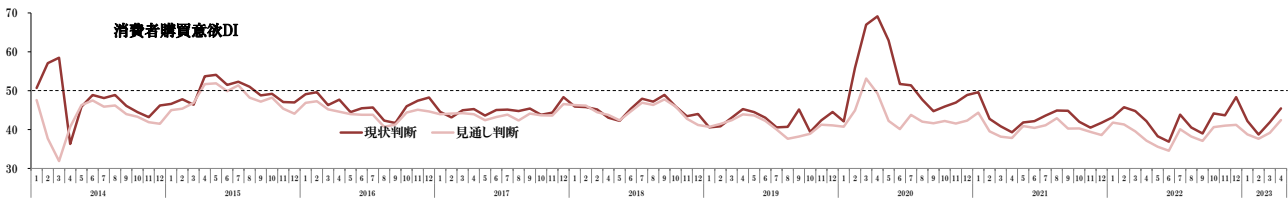
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	2.7	27.6	58.9	10.8	0.0	44.5
【現状】景況判断 (当月)	1.3	21.5	60.4	16.8	0.0	48.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	6.5	36.8	49.2	7.6	0.0	39.5
【見通し】景況判断 (当月)	2.0	27.0	58.8	12.2	0.0	45.3



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に2か月連続で大幅な改善

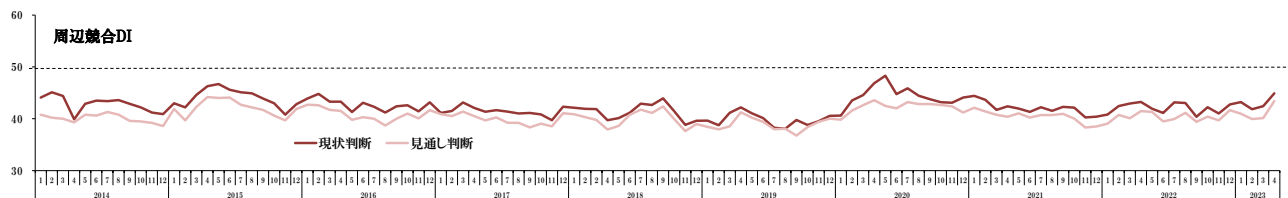
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	38.4	52.4	8.1	0.0	41.9
【現状】購買意欲 (当月)	2.0	25.5	61.1	11.4	0.0	45.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.7	43.2	48.6	5.4	0.0	39.2
【見通し】購買意欲 (当月)	3.4	32.2	56.4	7.4	0.7	42.4



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に改善

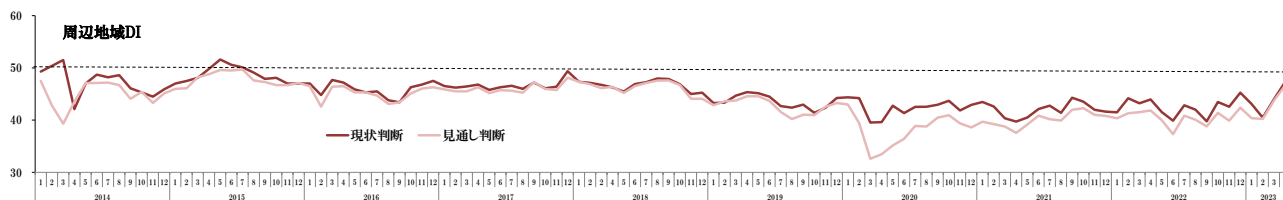
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.2	26.5	67.6	2.7	0.0	42.4
【現状】競合状況 (当月)	2.0	21.1	73.5	2.0	1.4	44.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.3	32.4	61.6	1.6	0.0	40.1
【見通し】競合状況 (当月)	3.4	23.0	70.9	2.0	0.7	43.4



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に大幅な改善

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	1.6	25.0	69.0	4.3	0.0	44.0
【現状】地域景気(当月)	1.3	15.4	76.5	6.0	0.7	47.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	2.2	26.1	66.3	5.4	0.0	43.8
【見通し】地域景気(当月)	1.3	18.8	72.5	6.7	0.7	46.6

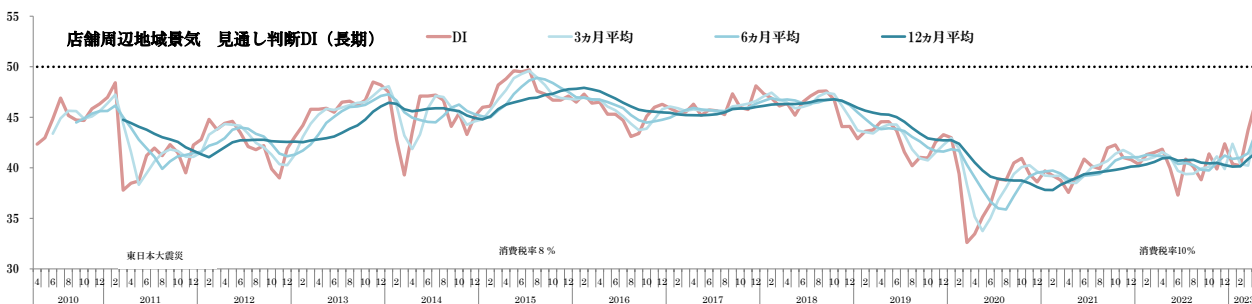
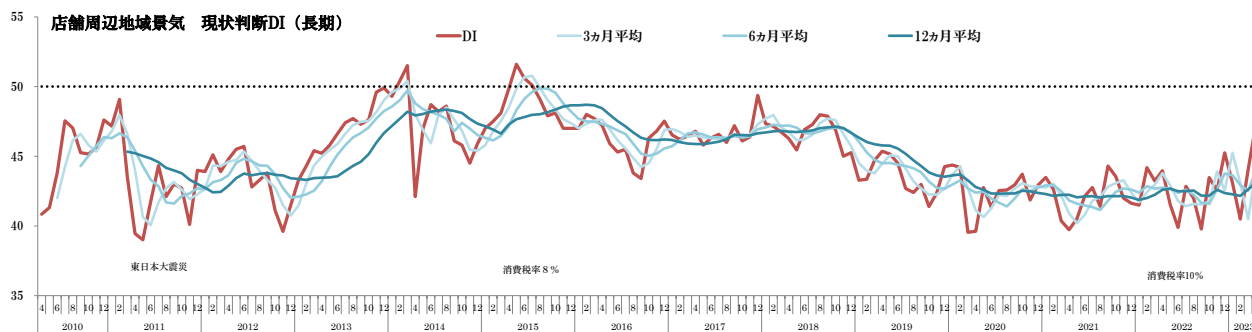


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

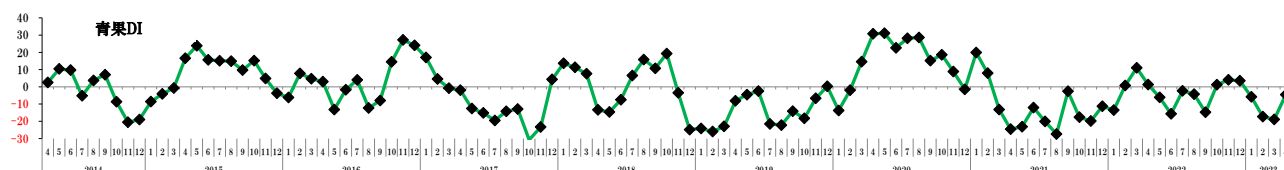
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後10月に再び改善に転じたものの、23年に入ると月により乱高下する不安定な動向が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：-4.6（やや不調）

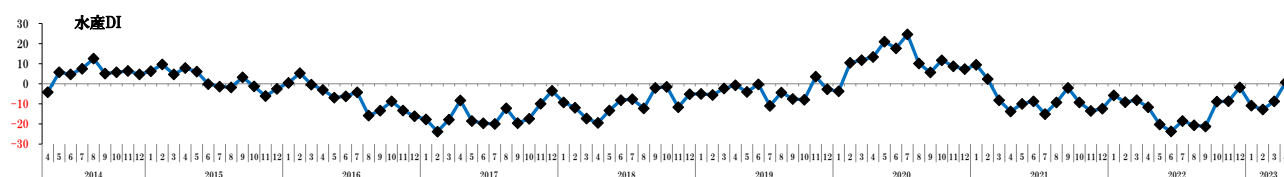
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	23.3	41.9	23.3	10.5	1.2	-18.9
青果（当月）	9.2	34.8	26.2	24.8	5.0	-4.6



引き続き玉ネギ、ジャガイモ等の土物類が前年の相場高騰の反動を大きく受けているものの、全体的に相場は上昇基調で、買上点数にも回復傾向がみられ、前月よりやや回復した。気温が高く推移したことでトマトやきゅうり、レタスなどのサラダ関連野菜、アスパラやブロッコリーなどを好調とするコメントが多い。果実は、国産ではイチゴは入荷状況により好不調がわかれており、輸入果実ではバナナやキウイフルーツが好調となった。

2. 水産 DI：0.7（やや好調）

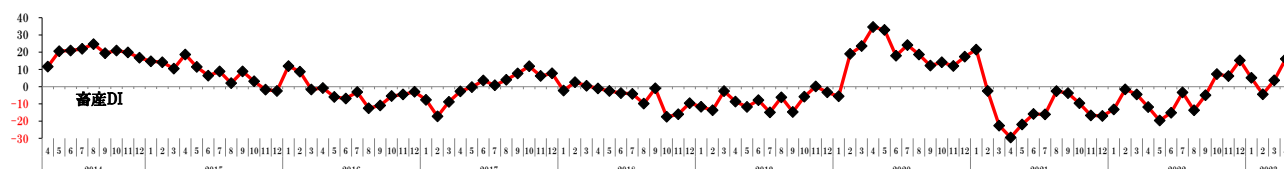
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	11.0	40.1	25.6	19.2	4.1	-8.7
水産（当月）	7.8	26.2	27.0	33.3	5.7	0.7



引き続き、燃料費や養殖飼料等の高騰により価格は高止まりしているが、気温の上昇を背景に生食類、なかでも刺身類に回復傾向がみられた店舗が多かった。塩干類は値上げによる買上点数の落ち込みが少なく、比較的好調とする店舗もみられた。入荷が比較的安定しているカツオやアジ、鮭類が好調。不振が続いていたアサリを中心に、貝類には回復傾向がみられた。その他、サラダ向けなど魚加工品を好調とするコメントもみられた。旬のホタルイカは不漁により不振となった。うなぎは価格高騰により、好不調の判断がわかれている。

3. 畜産 DI：16.1（好調）

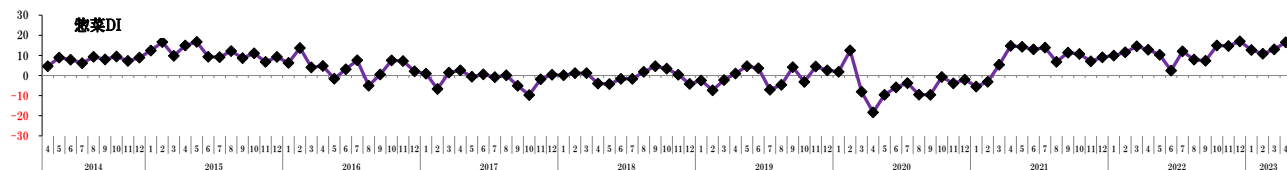
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	6.5	22.9	28.2	34.1	8.2	3.7
畜産（当月）	2.8	11.3	24.1	41.8	19.9	16.1



精肉全般で相場高が続いているが、豚肉や鶏肉では買上点数に回復傾向がみられ、好調となった。牛肉は焼肉用の動きが良いが、和牛など高単価商品の動きが鈍い。豚肉では輸入品の高騰、鶏肉も鳥インフルエンザの影響による高値が続いているが、好調に推移したとする店舗が多い。加工肉も含め、低価格商品に需要がシフトしているとのコメントが多い。売上高は確保できても利益が出にくい状況が続いている。

4. 惣菜DI：16.5（好調）

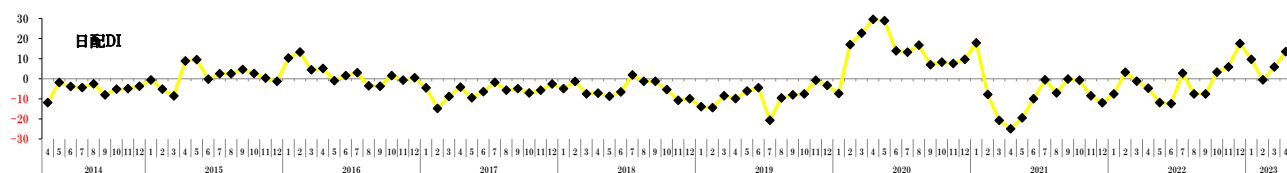
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.5	12.3	26.3	44.4	13.5	13.0
惣菜（当月）	2.9	8.6	23.7	48.9	15.8	16.5



食品価格の上昇に加え、家庭での電気・ガス代高騰や調理油の値上げの影響もあり、引き続き天ぷら、コロッケなど揚げ物類を中心に販売が好調となっている。行楽需要やイベントの再開が奏功、リモートからオフィス出勤の再開基調による夕方以降の需要回復も継続しており、特に米飯類の動きがよい。寿司、つまみ類や焼鳥などは、桜の開花が早まった影響を受けた地域、店舗もみられた。行動制限の緩和により外食への需要シフトが警戒されていたが、節約志向もあつてか、引き続き好調とのコメントが多い。

5. 日配DI：13.5（好調）

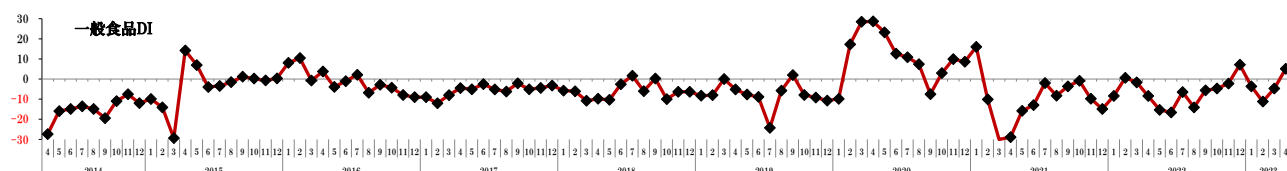
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	4.1	22.2	26.9	39.8	7.0	5.8
日配（当月）	2.1	13.5	27.0	43.3	14.2	13.5



乳製品やパン類を中心に値上げの影響が大きいカテゴリーとなっているが、買上点数の減少幅は小さく、一品単価上昇により、好調に推移した。冷凍食品は引き続き好調を継続。チーズ、機能性の乳酸菌飲料など、洋日配がカテゴリーの好調を牽引している。気温が高く推移し、アイスなど涼味商材の動きがよかった。鳥インフルエンザの影響で鶏卵価格の高騰が続いており、特売を控えている店舗が多いため売上高の確保につながっている。豆腐や納豆なども単価アップにより、売上は前年並みを確保した店舗が多い。

6. 一般食品：5.1（やや好調）

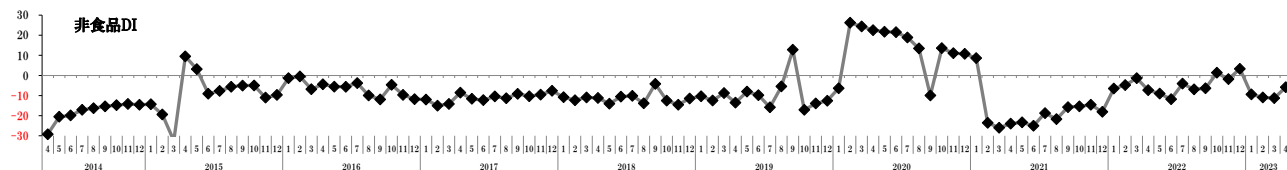
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	10.0	31.2	30.0	25.3	3.5	-4.7
一般食品（当月）	3.5	22.5	33.8	30.3	9.9	5.1



全般的に値上げにより価格が上昇しているが、店舗の販売点数の減少幅により好不調の判断がわかる傾向がみられた。レトルト食品やインスタント麺など、保存が利く備蓄向けのカテゴリーは前年からの反動がみられた。食用油や調味料など家庭調理向け食品も回復傾向がみられた。高い気温で推移したことや行楽需要の回復により、菓子類や飲料、アルコール類などが好調となった。不振が続いていた米類にも、回復傾向がみられている。節約志向の高まりや、PB商品の伸長を指摘するコメントが多い。

7. 非食品 DI：-5.8（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	16.3	36.1	28.3	15.1	4.2	-11.3
非食品（当月）	11.7	32.1	30.7	19.0	6.6	-5.8



マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品に需要減少の影響が大きいものの、ペットフードや家庭用洗剤は比較的好調に推移した。トイレtpーパー、キッチンペーパーなど紙製品も回復傾向を指摘するコメントが多い。カセットコンロやレジャーシートなど、行楽向け商品が好調に推移した。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2023年5月調査（4月実績）キーワードTOP3

1. 価格上昇による単価上昇
2. 食品需要回復による買上点数の抑制
3. 日曜日が一日多い

（参考）2022年5月調査（4月実績）キーワードTOP3

1. 行動制限緩和による需要変化と買上点数の減少
2. 仕入価格高騰と店頭価格上昇
3. 高い気温

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

4月実績速報版 149社
 3月実績確報版 185社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp